実施報告書

徳島県立城ノ内中等教育学校〔協力校　城ノ内中等後期課程〕

1. 実践研究テーマ

「対話的な学び」の実践を通して確かな学力の定着を図る
～一人一台端末の有効的な活用～

2. 取組の内容（協力校等との連携等を含む）

○授業参観・研究会を通した中高連携の推進

- １・２学期には、「学力向上のための教科会」 → 「相互授業参観・意見交換」→「授業づくり交流会（公開・研究授業＋授業研究会）」を前期課程と後期課程合同で実施することにより、課題や共通取組を共有し、連携を深めながら確かな学力の定着をはかった。
- ３学期には、ワークショップ形式で「授業づくり交流会」を実施し、城ノ内生の「よさ」と「課題」というテーマで次年度の学力向上実行プランの作成に向けて、MetaMoJiを使って意見を出し合った。
- 学力向上実行プランの振り返りを各教科で行い、達成状況（評価）や次年度の改善事項を共有した。

○一人一台端末や電子黒板の有効活用の実践

- 各教科において、一人一台端末や電子黒板を有効活用した生徒発表、ペア学習、グループ学習等を積極的に取り入れ、「対話的な学び」の実践による授業改善に取り組んだ。
- 各教科の授業実践について、相互授業参観や公開・研究授業、授業づくり交流会等を通して教員全体で共有し、授業改善をはかった。

3. 取組の成果

○ 教職員の変容

- 中等教育学校として、６年間を見据えた学習指導を意識し、教科内で連携を図りながら、各学年の授業づくりに取り組む意識が高まってきた。
- 鳴門教育大学や教育委員会から、ご指導やご助言していただいたことを実践し、授業改善につながった。
- ワークショップでは、他教科グループで協働して取り組んだり、成果物を共有したことで、生徒の「よさ」や「課題」に対する新たな気づきがあり、中高が連携していこうという意識が高まった。

○児童生徒の変容

- ICTを活用した視覚教材が増えることによって、例えば、数学では、文字だけでは伝わりにくいグラフや図形の変化を視覚的に捉えることができるようになり、生徒が自分でイメージ化しやすく、理解が深まってきている。また、英語では、MetaMoJiやパワーポイントを使って発表するなど、自己表現の仕方が増えたことにより、生徒自身の個性を発揮できるようになり、発表に前向きになってきた。
- ICTを活用することによって、生徒の積極的・主体的な学びが、より一層行われるようになってきた。